

韓国における林道の設置、維持及び管理について

韓国，江原大學校山林環境科學大學 ○車斗松・全權雨・李定洙
韓国，國立山林科學院 吳宰憲・池炳潤・曹丘鉉
愛媛大學農學部 江崎次夫

1. はじめに

みどり成長のための森林バイオマスの産物収集など森林事業において林道の必要性が高まっている。しかし、台風および集中降雨の大形化や頻発化により災害から安全な林道施設の要求も高まっている。また、林道を用いたレクリエーション、レポツなど多様な機能に対する国民のニーズも要求される。したがって、韓国における林道の設置、維持及び管理に関する政策を検討して、今後林道事業に関する方向性を提示することを目的とする。

2. 林道設置の基本方向

林道は林業用山地（経済林育成団地）を中心とした集約的かつ効率的経営基盤を構築するための施設であり、森林バイオマスエネルギーのための森林バイオマスの産物収集など、森林経営の活性化のための小型林道施設の拡大を図り、林道の設計、施設は災害から安全かつ自然親和的な林道を構築し、休養、余暇、レポツなど国民の多様なニーズを満たす林道施設を構築することである。具体的な細部推進計画は全国幹線林道基本計画、林道新設、林道構造改良、そして林道補修など区分され推進されている。

3. 林道設置の細部推進計画

1) 幹線林道計画

“森林資源の造成及び管理に関する法律”及び“林道設置及び管理などに関する規定”により第3次幹線林道設置基本計画が樹立され、経済林育成団地と林業用山地を中心として設置し、森林機能別林道密度を差をつけることとする。また、森林内に設置された他用度道路を含め長期目標（2003年まで林道密度8.5km/ha）を達成のため、全国林道網を構築のための総合計画を樹立し、林道設置対象地調査および施設計画を作成し、自治団体及び国有林私有林との連携性を考慮して路線選定を実施する。森林施業が計画された路線を優先的に選定し、森林事業の実行年度の以前に完了するように時期を調節し、森林の経営、管理、保護と地域間の連結及び森林機能の多様化と利用活性化を考慮する。そして、地自体または地方森林庁では森林施業の全般的な物量、地域間の均衡的な事業推進、森林内に設置された他用度の道路現況及び国私有林間の連携性を総合的に検討して基本計画を樹立する。

2) 林道新設

路線選定は幹線林道では幹線林道設置5ヵ年計画に反映された路線として妥当性の評価結果に適合した箇所に限り設置する。内容は路線選定を国私有林間および自治団体間の連携性をあるように選定し、既設置中である路線間の完結施工を原則として小規模分散設置を止揚する。

小型林道は経済林育成団地など森林施業（伐採、造林、森作り、間伐）が集中される地域を優先的に反映する。その内容は機械など森林バイオマス産物生産のための一括システム運営が必要な地域、大面積森づくり対象として国有林または公有林、私有林の間において事業実行主体を異なる森林も含めて実行することで活用度を図る。

既存の幹線、支線林道または公道（地方道、農路など）と連携が必要な地域とか実験林、特殊林管理、森林管理、災害予防、多機能林道造成などのための循環林道造成が必要な地域、既存の運材路、作業路など林道として活用価値が高い地域に新設する。また、山火事防止林道は山火事脆弱および優良林分に優先的に設置することを原則とする。

表1. 2010年林道設置の事業量及び事業費

（単位：km，百万円）

区分	計	幹線林道	小型林道	山火事防止林道
事業量	586	275	305	6
事業費	82,536	55,253	26,077	1,206

3) 林道構造改良

地域完結原則として施工し、集中豪雨の際、林道被害による人命、財産被害危険地、常時的な林道利用地など災害憂慮地域を優先的に実行し、森林内他用度道路を林道に転換した路線の中、森林施業が至急な地域、災害の危険性が高い地域及び地域住民などの需要が高い地域を対象として実施する。各構造物の工種は事業の必要性、至急性がある箇所に優先配置し、施工便宜中心で必要性が低い工種および過多施工（路面舗装など）は止揚する。また、休養林周辺、近隣都市、特に景色がいい路線など一般国民などの利用が多い林道は機能多様化のための施設物を設置し、利用満足度を考慮し、森林管理基盤施設として林道本来の機能を維持できる範囲で実施し、維持管理上の問題などの総合的に検討して施工する。そして、林道構造改良の単価引き上げ及び品質向上のための政策、盛土斜面に構造物を30%以上配分する構造改良のカイドライン制の適用を強化し、森林所有者に森林計画の事前通報及び林道周辺の住民意見反映など民願発生がないように事前措置をする必要がある。

表2. 2010年林道構造改良事業量及び事業費

(単位: km, 百万円)

区分	計	国有林道	私有林道
事業量	442	113	329
事業費	29,258	7,487	21,771

4) 林道補修

補修対象地は新設および構造改良事業の保証補修期間が過ぎた林道を対象として選定し、2月中旬に事業を着手し、6月末以前に完了されるよう推進する。解氷後及び雨季前に林道管理員を集中配置するなど常時管理体系を強化し、林道管理員は解氷期以後から直ちに林道を管理できるように1月中対象者を選定し、雨季中に集中的に活用する。国有林道の一部区間は民間委託で管理し、他の路線は自体防備を活用して補修および維持管理を実施し、民間委託事業は1回補修し6月まで完了して、2回事業地に対しては9月まで完了する。

表3. 2010年林道補修事業量及び事業費

(単位: km, 百万円)

区分	計	国有林道	私有林道
事業量	3,993	2,975(2,100)	1,018
事業費	9,248	2,359(1,574)	6,889

※ 国有林道の () 内は民間委託維持管理で合計含まれていない

4. おわりに

韓国における林道の必要性は森林バイオマスの産物収集のための林道施設、即ち、小型林道施設の拡大が主流であるが、台風及び集中降雨による林道被害の大形化から安全かつ堅固な林道施設の構築もその重要性が高まっている。したがって、森林庁の林道政策も小型林道の新設だけではなく、林道構造改良及び補修などを通じてそれらの目標を達成しようとする計画であるが、より具体的な小型林道の構造及び規格に対する検討の必要性がある。

謝辞

本研究は山林庁山林科学技術開発事業（課題番号：S210809L010110）の支援により行われたものである。